

【決算ハイライト】

① 2016年度決算について

- ・売上高は390.9億円(+5.6%)、経常利益は23.0億円(+17.6%)。 ※カッコ内は前年比
- ・売上高、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益とも過去最高を更新。(6期連続増収増益)
特に、製鉄所システムリフレッシュの本格化により鉄鋼向け売上高が増加。
- ・収益の改善を受けて、配当についても、当初見通し(38円/株)を上回る増配(44円/株)を予定。

② 2017年度見通しについて

- ・売上高は410億円、経常利益は24億円。7期連続の増収増益を目指す。
- ・売上高、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益とも過去最高の更新を目指す。
- ・一般顧客向けで売上高が減少も製鉄所システムリフレッシュの更なる拡大による鉄鋼向けの増加が寄与。

③ 中期経営計画の進捗について

- ・経常利益は2016年度実績で中期計画収益目標を前倒し達成。中期最終年である2017年度で売上高の超過達成を目指す。
- ・施策面では、重点課題である製鉄所システムリフレッシュの推進、ソリューション事業の拡大、基盤サービス事業の拡大、製造・金融顧客基盤の強化、プロダクト事業の強化を着実に推進中。
特に、製鉄所システムリフレッシュ関連では、ベトナムのオフショア企業を起用し、システム開発要員を確保。

【質疑応答】

Q1.製鉄所システムリフレッシュで蓄積したノウハウを製造業等の一般顧客向けへ展開とのことだが、一般顧客向けの売上が伸びていないことには何か理由があるのか。

A1.ノウハウを一般顧客向けに展開するのは、製鉄所システムリフレッシュの完了後の予定。現在は、要員リソースを製鉄所システムリフレッシュに重点的に投入している。

Q2.人材育成投資の具体策は？

A2.製鉄所システムリフレッシュに携わる部門に配属になるメンバーを一定期間ダブル配置するなどして、習熟させる等、人材の先行投入を行っている。

また昨今、情報セキュリティの重要性が増していることを受け、その専門知識を持った技術者の育成に注力している。

Q3.製鉄所システムリフレッシュの関係では、今後も売上高は伸びるのか？

A3.製鉄所システムリフレッシュは、少なくみても2020年まではかかるので、当面は規模が拡大していくと考えている。

以上